

ぼくが生きてる、 ふたつの世界

当日券 1,200 円
前売券 1,000 円
各回定員 350 名
全席自由席
バリアフリー
字幕付き

伝えられない想いが
あふれだす。



日 時 2026年2月8日(日) 開映1回目 10時00分 2回目 13時30分 開場は開映の30分前
会 場 はまゆう会館 ホール
主 催 横須賀手話サークル連絡協議会
後 援 横須賀市 横須賀市聴覚障害者協会 横須賀中途失聴者・難聴者の会「こだま」

監督:呉美保 主演:吉沢亮 脚本:港岳彦

忍足亞希子 今井彰人 ユースケ・サンタマリア 烏丸せつこ でんでん
原扶貴子 山本浩司 河合祐三子 長井恵里

原作:五十嵐大「ぼくが生きてる、ふたつの世界」(幻冬舎刊) 企画・プロデュース:山国秀幸

製作:「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会(ワーターラボラトリーア・博報堂DYメディアクループ&ピクチャーズ/ギャガ/JR西日本コミュニケーションズ/アオ・ビー・アイノ・アムーズ/河北新報社/東日本放送/シネマトピア)

助成:文化庁文化芸術振興費補助金(映画創造活動支援事業) 独立行政法人日本芸術文化振興会

©五十嵐大/幻冬舎 ©2024「ぼくが生きてる、ふたつの世界」製作委員会 配給:ギャガ GAGA gaga.ne.jp/FutatsunoSekai/

母に背を向け、故郷を離れたぼく——。

繊細に紡がれる、きこえない母ときこえる息子、そしてあなたの物語。

GAGA
GENDA GROUP

親子の物語が、そしてひとりのコードの心の軌跡が、点描のように紡がれていく——。監督は、本作が9年ぶりの長編作品となる、『そこのみにて光輝く』『きみはいい子』の呉美保。作家・五十嵐大氏の自伝的エッセイを原作に、脚本は『正欲』の港岳彦。吉沢亮が、『きこえる世界』と『きこえない世界』を行き来しながら生きる主人公を体現、自身の居場所を見出していく若者的心を繊細に演じた。母・明子役には、ろう者俳優として活躍する忍足亞希子。

やがて母への想いが観る者の胸にも静かに温かく満ちていく、心に響く映画が誕生した。



母と息子、切なくも心に響く家族の物語

Story

宮城県の小さな港町、五十嵐家に男の子が生まれた。祖父母、両親は、“大”と名付けて誕生を喜ぶ。ほかの家庭と少しだけ違っていたのは、両親の耳がきこえないこと。幼い大に

とっては、大好きな母の“通訳”をすることも“ふつう”的な日常だった。しかしぬるに、周りから特別視されることに戸惑い、苛立ち、母の明るささえ疎ましくなる。心を持て余したまま20歳になり、逃げるように東京へ旅立つ大だったが…。



『ぼくが生きてる、ふたつの世界』横須賀上映会

開催日時 2026年2月8日(日)

1回目 開映 10:00 2回目 開映 13:30 開場は開映の30分前
会場 横須賀市はまゆう会館 ホール JR横須賀線 衣笠駅下車 徒歩5分
入場料 当日券 大人 1,200円 前売券 1,000円 高校生以下(当日・前売り共) 500円
問合せ・申込先 tesaren_event@himawari-net21.main.jp

申込メール作成 QRコード→



主催 横須賀手話サークル連絡協議会

後援 横須賀市 横須賀市聴覚障害者協会 横須賀中途失聴者・難聴者の会「こだま」